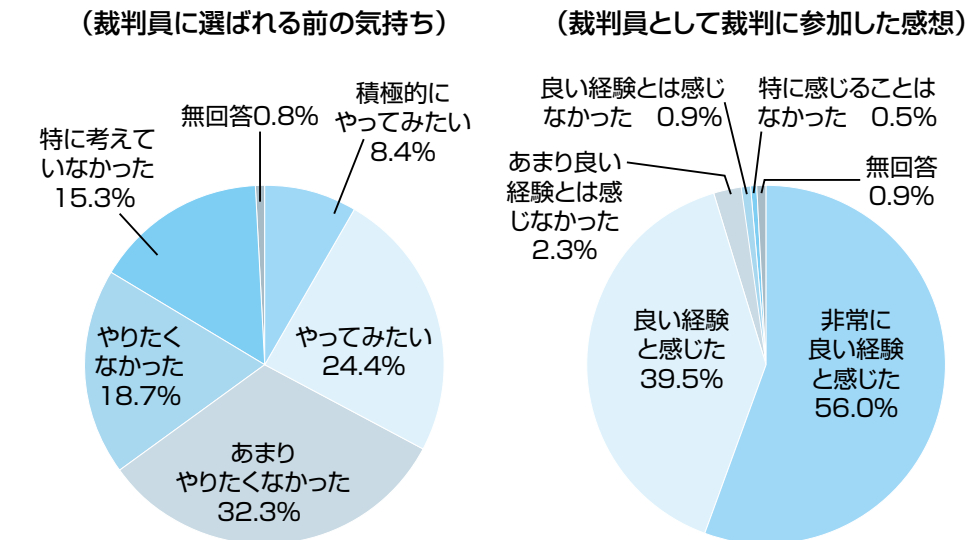


裁判員裁判の実施状況

平成21年5月21日のスタートから早くも6年が経った「裁判員裁判」。平成26年12月までに、7,262人の被告人に判決が言い渡され41,834人が裁判員に選ばれました。ここでは、これまでの裁判員制度の実施状況をお知らせします。

裁判員になった人の感想は？

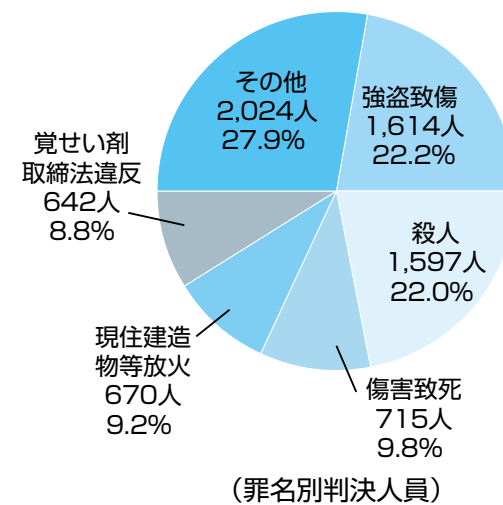


裁判員に選ばれる前は、「(あまり)やりたくなかった」と回答した人が合計51.0%でしたが、裁判に参加した後は、合計95.5%の人が「(非常に)良い経験と感じた」と回答しており、裁判員の職務に充実感を持ったことがうかがえます。

「(あまり)やりたくなかった」51.0% → 「(非常に)良い経験と感じた」95.5%

どんな事件で裁判員裁判が行われたの？

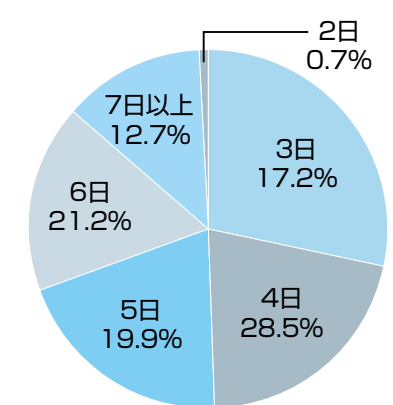
平成26年12月までに、強盗致傷事件が一番多く、次いで殺人、傷害致死、現住建造物等放火、覚せい剤取締法違反などの事件で裁判員裁判が行われました。



どのくらいの確率で、裁判員に選ばれるの？

平成26年12月までに、裁判員に選ばれたのは41,834人、補充裁判員に選ばれたのは14,262人でした。1年間で裁判員または補充裁判員になる確率は約10,800人に1人でした。和水町の人口は10,787人(平成27年6月時点)なので、1年間に約1人は町民から選ばれる計算になります。

何日くらい参加するの？



参加した日数は、2日～7日以上と幅広く、平均では約5.3日という結果でした。

(裁判員が裁判員裁判に参加した日数)

※小数点第2位を四捨五入しているため、各比率の合計が100%にならない場合があります。

問い合わせ先 熊本地方裁判所 総務課 庶務係 ☎096・241・8921
裁判員制度ウェブサイト <http://www.saibanin.courts.go.jp/>

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

23

大田 幸博

(元・菊水町史編集委員会副委員長)

今

年の梅雨は、これまで経験した事のない本格的なものでした。晴れ間が、ほとんど無く、しとしと雨が振り続き、結果として二ヶ月間も現場を休んでしまいました。すっかり体も鈍り、これからが大変です。

今月は、江栗集落について、お話をします。城時代は、江栗城の麓集落(城下町)でした。菊池川の右岸を走る県道(竜門、菰田、山鹿線)沿いに家屋列が展開しています。地形的には、北側に丘陵地の斜面部が弧状に壁を形成して、南側に菊池川が流れていますので、地形的に囲い込まれており、防衛的にまとまりがあります。東西の長さ1.3km、南北幅100～370m、麓集落として、大きなクラスの部類に入ります。

集落の中心に、高さ15m程の小山(丘陵末端部)があり、出城のように見えます。丘頂には、「江栗さん」と呼ばれる五輪塔が小社内に祀られています。「聳山秀居士 妙春大永五年(1525)年九月」との銘文が刻まれ、相撲の神様と伝えられています。以前は九月五日の祭日に、江栗阿蘇神社の境内下で、子供相撲が催されていました。

四百年前の話として、「旅人の江栗さんが、この地で河童と相撲をとって勝ったので、それ以降、菊池川で水難が無くなった」との言い伝えがあります。そこで、江栗さ

んは、相撲の神様として祀られ、当地で相撲が盛んになったとされます。

江栗集落は、江栗城跡の大きさに見合う麓集落です。もちろん、当時の村の規模は、今日、伺い知れませんが、地形から、その様子は十分に想像されます。規模の面で、城跡と集落のバランスが取れている所が特筆されます。

集落内の五輪塔は、同時期のものが、南西方向、直線距離にして、約2.7km離れた内田宮山城跡に残っています。天文八年(1539)と、永正十年(1513)の年号が刻まれています。時代的には、プラス14年からマイナス12年です。両城跡は、ほぼ、同時期に存在した事になります。内田宮山城跡は、菊池川右岸から700mの所に位置しています。

江栗城跡は、菊池川右岸に密着した城跡で、河川交通と深いつながりがあると考えられます。昔話も関連あるかもしれません。

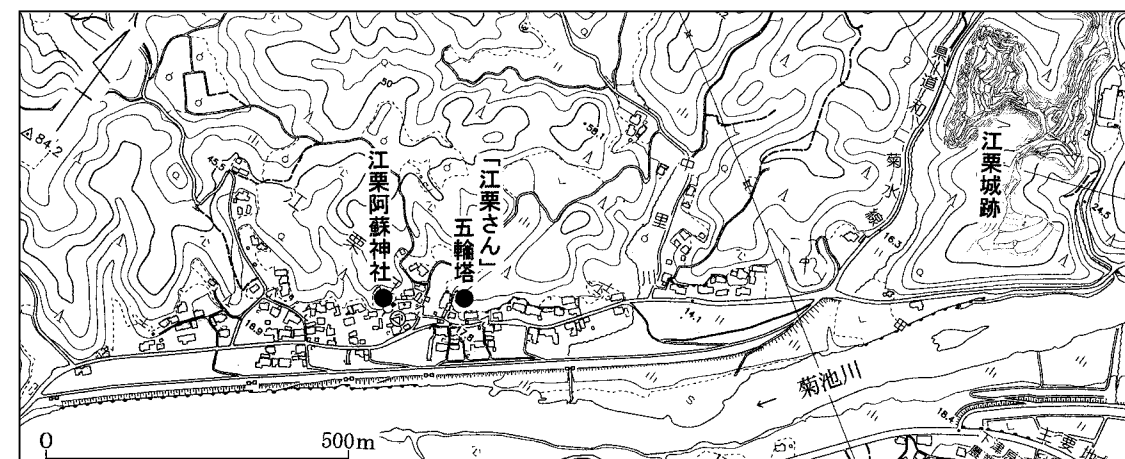
城主の館跡は、不明です。地形的に囲い込まれていますので、分かりそうな気がします。江栗阿蘇神社の境内は、候補地の一つですが、城跡から1050mも離れており、遠すぎる感があります。ちなみに、麓集落内で館跡が推定出来る所は、ごく少数です。



「江栗さん」五輪塔



江栗城 麓集落 (江栗地区)



江栗地区周辺図